

2025.8.27

インデックス～前田建設等、ガーナ有料道路PPPで基本合意書 ―来年後半にコンセッション契約へ／既存・新設計99km―

建設コンサルタント企業のインデックスストラテジー(本社：東京都港区)～前田建設工業～ポルトガル・モタエンジル(Mota-Engil)～現地ストラテジックイニシアティブズ(Strategic Initiatives)の4社コンソーシアムは、西アフリカのガーナでPPP(官民連携)方式で計画されている有料道路の整備・運営プロジェクトについて、ガーナ政府と基本合意書に調印した。調印式は、このほど横浜市内で開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD9)のサイドイベントにおいて行われ、国土交通省の幹部が立ち合った。ガーナ政府側の担当機関は、ガーナ道路・高速道路省とガーナ道路公団。



署名式にて

事業化調査(FS)の報告書は2025年前半にガーナ政府へ提出しており、2025年内をめどにガーナ政府からの正式承認を取得する。その後に契約交渉を進め、2026年10月頃までにコンセッション(公共施設等運営権)契約の締結を目指す。

プロジェクトは、新設の高速道路(全長44km)と既存の国道(同55km)を一括し、30年間のPPP(官民連携)プロジェクトとして運営する計画だ。新設される高速道路は「アペメニム～ダボアセ区間バイパス道路」と呼ばれ、ガーナ南西部に位置するウェスタン州のアペメニム(Apemeyim)～ダボアセ区間(Daboase)に全長44kmのバイパス道路を新設する。PPP方式により、新設・運営・維持管理を民間に委託する。一方、同バイパス道路に並行する既存の国道1号線についても、全長55km・片側1車線の道路を有料化した上で、PPPプロジェクトとして一括で実施する。

コンセッション契約締結後、インデックスストラテジー～前田建設工業～モタエンジル～ストラテジックイニシアティブズは、特別目的会社(SPC)を設立して事業を運営する計画だ。出資比率は日本・ポルトガル・ガーナで各3分の1の予定。その他、ソーシャル・インパクト・ファンド(SIF)である「悉皆(しっかい)ファンド」が出資を検討している。同ファンドは、ポルトガルに拠点を置くプライベート・エクイティ・ファンド運用会社である3xP Globalと、インデックスストラテジーの親会社であるインデックスが運営する。融資の調達先は、アフリカ開発銀行、国際協力機構(JICA)の海外投融資、ガーナ国家投資銀行(NIB)を検討中。EPC(設計、調達、建設)はモタエンギルが担当する。

※掲載記事の無断転載を禁止します。

著作権は(株)重化学工業通信社に帰属します。

Copyright (C) The Heavy & Chemical Industries News Agency, all rights reserved